

(2019)
令和元年 10/11(金)~11/24(日)

令和元年 第43回郷土先人展

砺波地方の麻と

出町の麻問屋 神田商店

開館時間 9時~17時

休館 月曜日・第3日曜

会場：砺波郷土資料館

〒939-1382 砺波市花園町1-78

Tel: 0763-32-2339 E-mail: shiryokan@city.tonami.lg.jp

主催：砺波郷土資料館 / 共催：砺波市文化協会

入館無料



はたお
機織り体験講座
たかばた
高機で作る 麻のコースター ※お持ち帰り出来ます

日時：令和元年 10月19日(土)・20日(日)

各日10時, 11時, 13時, 14時, 15時 各時間に1人ずつ

募集人数：10名 日にちと時間を指定して電話でお申し込み下さい(先着順)

会場：砺波民具展示室 (庄東小学校3F 砺波市頼成566)

体験料：800円

協力/指導：Casa小院瀬見



申し込み・お問い合わせ

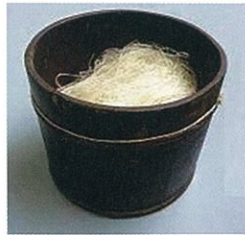
0763-32-2339 (砺波郷土資料館)



かつて砺波地方では麻布が生産されていました

人と麻の歴史は古く、縄文時代の遺跡から出土した縄類や布類を分析すると約一万年前にまで遡ると言われています。この「麻」は大麻や苧を指し、茎から繊維を取り、裂いてつなぎ、長い糸にしました。

砺波地方で麻の記録が登場するのは中世15世紀からで、近世初頭には砺波郡五郎丸村・八講田村(現小矢部市)が年貢として五郎丸布・八講布を加賀藩に納めました。近世中頃には衰退し、麻の主生産地は中田、福光に移ります。中でも福光には麻布を求めて多くの商人が集まりました。戦後に大麻栽培が禁止されるまで、大麻の糸や布が地元の女性たちの手や機によって生み出されていました。



おぼけ お芋桶と芋



てう かせ
手績みの糸
(大麻)



たて いと
経糸
(紡績麻糸)



きゆうせい
反物(旧製)
たていと よこいと てう
(経糸・緯糸ともに手績み)



きびら
反物(生平)
たていと ぼうせき よこいと てう
(経糸が紡績、緯糸が手績み)

出町の麻問屋 神田商店



初代七次郎

年	事項
文久2 1862	初代七次郎が麻の仲買人としての帳簿「申年暮三拾七駄荷物中間廻し決算帳」を記す
明治25 1892	下野製麻と特約を結び、紡績の麻糸を経糸に使用し、裂けにくい麻布を作る 神田七次郎商店設立
明治37 1904	日露戦争による特需により生産を伸ばし、大いに売上を上げる
大正7 1918	麻織物の製造工場として中越製布会社設立 出町の工場制機械工業が進む
昭和7 1932	3代七次郎が出町町長を務める (2期 昭和7~13)
昭和18 1943	中越製布(株)が航空発動機の製造工場に転換、社名を中越航空工業(株)に変更 昭和20年には石川島航空中越製作所に改称
昭和22 1947	石川島産業より工場を買い戻し、中越紡織(株)を設立 昭和34年に日本製麻(株)へ改称



神田商店前景

おもな麻の種類 — ひとくちに「アサ」と言っても全く別の植物です



たいま/あさ
大麻
Hemp
ヘンプ

アサ科の一年生、中央アジア原産。約110日で2~4mに生長する。皮から繊維を取り、種は調味料、油にする。古くから麻といえば大麻を指すことが多い。

今日では無毒な大麻が栃木県等でわずかに生産され、主に神事用として神社、伝統工芸や伝統芸能に使用されている。



からむし
苧
Ramie
ラミー

イラクサ科の多年生、中国・マレー半島原産。茎は木質、葉は広卵形で裏面が白い。高さ1.5m程。大麻よりも繊維が柔らかく、上布(高級麻織物)の原料となる。

日本での呼び名が多様で、地域によりカラムシ・チョマ・アオソなどがある。



あま
亜麻
Flax
フラックス

アマ科の一年生で、西アジア原産。高さは約1m。日本では明治以降、冷涼な気候の北海道のみで栽培。

亜麻の繊維を原料として作られた製品をリネンと呼び、吸湿性に優れていたため夏の衣料などに用いられる。